

初見

川渡といふ。川幅凡に三百間、許半里に准す。

〔古事記中神武〕神倭伊波禮昆古命○中從其國○吉上行之時、經浪速之渡而泊青雲之白肩津、
〔日本書紀景行〕二十七年十二月、日本武尊○中比至難波殺柏濟之惡神、

〔藻鹽草水邊〕渡

かち渡。かち人のわたれどぬれぬ。あさきわたりせ

〔倭訓栞中編四〕かちわたり 涉字をよめり、歩渡の字も、西土の書に見えたり、

〔段注說文解字十一下〕蹠徒行濁水也。濁各本作厲誤。濁或硃字也。硃本履石渡水之稱。釋水曰。繇膝以上爲涉。毛傳同。許云。徒行者以別於以渡。車及方舟之也。皆涉也。故字从步。揭从牘步會意。時攝。篆文从水。

〔論語四而〕子曰。暴虎馮河、死而無悔者、吾不與也。(中略) 暴虎馮皮水反(中略)

〔爾雅註疏七釋水〕濟有深涉。○註。深則厲淺則揭。揭者揭衣也。○註。衣涉水爲厲。○註。繇膝以下爲揭。繇膝以上爲涉。繇帶以上爲厲。

〔段注說文解字十一上〕踰無舟渡河也。小雅釋傳曰。徒涉曰馮河。徒搏曰暴虎。爾雅釋訓論語孔注同。溯正字。馮假借字。从水明聲。皮冰切。

〔伊勢物語〕昔男ありけり、その男伊勢の國に、かりのつかひにいきけるに、かの伊勢の齋宮なりける人のおやづねの使よりは、此人よくいたはれといひやれりければ、親の事なりければ、いと念比にいたはりけり。○中國のかみいつきの宮のかみかけたる、かりのつかひ有とき、て、夜ひとよ酒のみしければ、もはらあひごともえせで、あけばおはりの國へ立なんとすれば、男も人しれずちの泪をながせどもえあははず、夜やうくあけなんとするほどに、女かたよりいだす盃のさらに、歌を書いて出したり、取て見れば、

かち人のわたれどぬれぬえにしあれば、とかきてすへはなし、その盃のさらにつる松のすみして歌のすゑを書つく、